令和5年度生野区区政会議 第1回くらしの安全・安心部会

1 開催日時

令和5年6月13日（火） 19時00分～20時33分

2 開催場所

生野区役所 5階 502・503会議室

3 出席者

（区政会議委員）6名

三木委員、橋野委員、倉本委員、柴田委員、北口委員、川中委員

（生野区役所）9名

筋原生野区長、小原副区長、大川企画総務課長、木村地域まちづくり課長、松村安心まちづくり担当課長、中條地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部教育担当課長、小川保健福祉課長、森子育て地域福祉担当課長、杉本区政推進担当課長

4 委員に意見を求めた事項

（1）令和4年度生野区の取組みの振り返りについて

資料1 令和4年度生野区の取組み振り返りについて
（くらしの安全・安心部会：抜粋分）

参考資料1 令和4年度生野区の取組み振り返りについて
（くらしの安全・安心部会：抜粋分）＜説明スライド＞

参考資料2 いただいた主なご意見等（要約）と区の考え方、対応
（令和4年度第3回全体会分）

（2）その他

参考資料3 令和5年生野区区政会議委員改選について（お知らせ）

5 会議内容

○杉本区政推進担当課長

それでは皆様、お待たせいたしました。お時間になりましたので、ただいまから令和5年度生野区区政会議第1回くらしの安全・安心部会を始めさせていただきます。

委員の皆様、ご多用のところご参加いただきまして、ありがとうございます。

私、事務局の生野区役所企画総務課の杉本と申します。着座にて失礼いたします。よろしく申し上げます。

まず初めに、本日の会議の出席状況等について、ご報告いたします。本日の会議は、委員定数11名に対しまして6名のご出席がございまして、定数2分の1以上ということで、有効に成立してございます。

そして本日の傍聴者は1名となっております。区政会議に関する本市の規則によりまして、本日出席された委員の方のお名前、発言内容等が公開されます。事務局において会議録を作成しまして、後日、区のホームページ等で公開させていただきますので、録音や撮影についてご了承のほどお願いします。

次に、本日の区政会議の趣旨と配付資料についてご説明いたします。

本日のくらしの安全・安心部会では、主に防災・防犯、地域福祉、人権・多文化共生等の分野について、昨年度の生野区の取組を振り返りまして、その評価や課題について、委員の皆様にご意見、ご議論いただきまして、次の取組へとつなげていきたいと考えてございます。

本日の会議でいただいたご意見は、後日開催されます全体会の場で報告いただきまして、全ての委員の皆様と共有いただくということになってございます。

続きまして、本日の資料についてご説明申し上げます。

左肩に当日用とございます「令和5年度第1回生野区区政会議くらしの安全・安心部会」の次第をご覧ください。本日の会議資料が掲載しております。資料がおそろいでない場合は、お手を挙げていただければ、後ほどお持ちいたします。

まず資料1といたしまして、こちらは事前に送付しております「令和4年度生野区の取組み振り返りについて（くらしの安全・安心部会：抜粋分）」というA4横の資料がございます。

続きまして、本日配付の資料でございます。まず、参考資料1としまして、前のスクリーンに映しておりますが、その投影する説明スライドを印刷したA4の横の資料がございます。

また同じく参考資料2としまして、前回3月に開催した全体会における「いただいた主なご意見等（要約）と区の考え方、対応」というA4縦の資料がございます。

そしてその他、参考資料3としまして、こちらも後にご案内いたしますが、「令和5年生野区区政会議委員改選について」というA4縦の1枚ものの資料がございます。

最後に、次第には書いてございませんが、委員の皆様の名簿がございます。あと本日、区政会議くらしの安全・安心部会に関するアンケート用紙も机の上に置かせていただいております。お手数ですが、お帰りの際までにご記入いただいて、机の上に置いていただけますと幸いです。

事務局からのご報告は以上になってございます。

それでは、これからの議事進行については、橋野部会長によりしくお願いしたいと思っております。

○橋野部会長

こんばんは、橋野です。よろしくお願いいたします。

ただいまから、令和5年度第1回くらしの安全・安心部会を開催します。

区政会議は、地域でまちづくり活動を実際に進めている私たちが、区役所と一緒に意見をもつ場となっております。部会でも出された意見は、全体会議において報告し、共有することとなります。

その中でこの部会は生野区の防災・福祉などの分野について、有効で活発な議論を行えるよう、意見交換を進めていきますので、皆様よろしくお願ひいたします。

それでは、開催に当たりまして、筋原区長からご挨拶をお願ひいたします。

○筋原区長

皆さん、こんばんは。生野区長の筋原です。本日はお忙しい中、お集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。

また新型コロナウイルスも第5類になってまいりまして、地域の活気も確実に戻ってきていると実感しているところでございます。

また2年後に、2025年大阪・関西万博の開催も控えまして、それに向けても生野区も、「EXPOいくのヒートアッププロジェクト」という名前で、万博に向けてまちの熱量をしっかりと上げていこうという企画も、今年やろうとしているところでございます。

一方で、人の動きがものすごく活発になってまいりましたので、コロナの感染者数が今すごく増えてきておりまして、今日もちょっと医療関係の方にお聞きしたら、実感としたらこのひと月で倍ぐらいに増えてきたというお話で、またはしかなどの、ほかの感染も増えてきているということですので、第5類にはなりませんが、また感染対策を十分に続けていただければと思っています。

本日、令和4年度の取組の振り返りについてご報告をさせていただきます。くらしの安全・安心部会のテーマは、まちづくりを進める上でのまちの土台となる、基礎となる大切な部分でございますので、本日も忌憚のないご意見をいただきまして、よりよい区政につなげてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。ありがとうございます。

○橋野部会長

ありがとうございました。

それでは、ただいまから議事に入るに当たりまして、これからは学識の委員であります川中委員に会議の進行等をお願ひしたいと思ひます。

川中委員、よろしくお願ひいたします。

○川中委員

皆さん、どうもこんばんは。ありがとうございます。部会長からご指名いただきました川中でございます。これから会議の進行をさせていただきますので、皆様、どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、会議の次第に沿いまして、議事1「令和4年度生野区の取組みの振り返りについて」を、区役所から説明をいただきたいと思ひます。

では、よろしくお願ひいたします。

○武田企画総務課長代理

皆さん、こんばんは。生野区役所企画総務課の武田と申します。私から令和4年度生野区の取組みの振り返りにつきまして、ご説明させていただきます。失礼ですが、着座して説明をさせていただきます。

前面のスクリーンか、本日配付をさせていただいております、右上に参考資料1と書いている「令和4年度生野区の取組み振り返りについて（くらしの安全・安

心部会：抜粋分）」のどちらかをご覧くださいと思います。詳しい内容は、事前に配布しています資料1にあります。こちらはそこから抜粋したものとなっています。

本日皆様にご意見いただくテーマでございますが、大きく3つに分かれています。1点目は防災・防犯、2点目は地域福祉、3点目は人権・多文化共生でございます。

安全・安心のテーマは、区民の皆様の生命・身体に係るとても重要かつ緊迫したテーマであり、区民の皆様の居場所とも言えます。中身も幅広く、そして深いため、それぞれのテーマごとに分けて意見交換いただければと思います。

まずは防災・防犯の取組でございます。現状として、生野区には老朽化した住宅・長屋、不動産市場に流通しない空き家が多く、細街路が多いため、地震や火災等による大規模被害のおそれがあります。住民の高齢化や土地建物の権利関係が複雑なために、オーナーによる自主的な建て替えが十分に進んでいないことも現状として挙げられます。

また、生野区は高齢化率も高く、高齢者を狙った特殊犯罪、特殊詐欺が発生しやすい状況にあります。

そこで、地域の自主防災活動を支援するために、地域防災訓練や地域防災マップの作成支援、そしてウェブ版のハザードマップの更新や、地域防災リーダー研修会を実施してまいりました。

また、災害からご自身で身を守るための取組として、自然災害の多いシーズンに入る前に、区の広報紙で、区民の皆様に防災の心得について分かりやすくお知らせをいたしました。これらの取組は、これまでも続けてきたものでございます。

次に、新たな取組としまして、個別避難計画の策定であります。少し詳しく説明しますと、国の法改正により、高齢者、障害者などを対象とした個別避難計画の作成について、令和7年度末までに作成することが市町村の努力義務と定められ、大阪市でも、優先度の高い方から作成に取り組むこととなりました。

個別避難計画とは、自ら避難することが困難な方について、災害時の具体的な支援内容や、支援者、避難方法を記載したもので、具体的には、住所、氏名、生年月日などの情報や、支援を必要とする理由、そして、災害時に支援する人や団体の名称などが記載されます。

まずは、上町断層帯地震や河川の氾濫等による浸水被害想定等により選定しました北鶴橋地域でモデル実施し、14町会、約500人分の計画を作成しました。今年度は、区内の残り18地域で策定の取組を進めてまいります。

続けて、空き家や老朽住宅への対策としまして、区民からの相談受付や、空き家所有者等への適切な維持管理、相続等による権利関係の重要性を周知することにより、放っておくと危険な空き家等の是正に努めました。

また、スライド右側にありますように、空き家活用株式会社と事業連携協定を結び、区内の空き家等の情報交換や、空き家等の利活用促進に向けて連携した取組を始めました。

具体的な取組としまして、生野アキカツカウンターを開設しました。これはノウ

ハウを持った空き家専門アドバイザーが、空き家のオーナーが抱えている課題に寄り添い、空き家の流通を実現する、相談専門カウンターであります。

続きまして、防犯の取組です。犯罪の起こりにくいまちづくりに向けて、これまでも地域・警察と連携し、区内全域の一斉パトロールや、地域安全防犯カメラを19カ所設置し、また、防犯教室や小学生を対象としましたガチ☆メン出前講座を実施しています。

こちらにつきましては、特殊詐欺の被害に遭わないように「広報いくの」でも、分かりやすく周知の方をいたしました。

こうした防災・防犯の取組ですが、個々の取組において、一定の目標や目安となる基準を立て、達成できたもの、あるいは基準には至らなかったものなど様々ありますが、これらの取組を振り返って、今後、より有効な取組につなげていくための課題としまして、災害時における地域での自助・共助が、しっかりと機能するための自主防災体制をどう強化していくか。少子高齢化が進む中、自主防災体制を支える担い手をどう確保していくか。空き家オーナーへの啓発や指導など、放置された空き家や危険な空き家が増えないためにどうすればいいか。街頭犯罪の防止に向けて、地域住民や警察など、関係機関といかに一体となって取り組むか。

これらの課題に対して、地域住民の目線から見て、もっと有効な手だて、アイデアはあるのか。そういった点を論点として挙げさせていただいています。

以上、防災・防犯の取組の説明となります。

委員の皆様、よろしくお願いいたします。

○川中委員

ありがとうございました。

今、前の画面に出ているスライドですね。お手元の資料の10ページのところですけども、この4点について、ぜひ委員の皆様方からご意見をいただきたいということですので、この後皆さんお一人ずつ、自主防災体制を強化するにはこういう支援があるといいのではないか、区役所とこういうことが一緒にできたらいいのではないかと、人材の確保でこういう取組を行政が推進するといいのではないかとというようなご意見をいただきたいですし、空き家につきましても、どういうふうを活用していく流れを作り出していけばよいか、街頭犯罪防止等についての取組はもっとこういうことをしたらどうかということ承りたいです。

ご意見を承る前に、説明いただいた中でまず理解ができなかったところとか、もう少し説明いただきたいところとかご質問があるかどうかを確認したいと思いますが、いかがでしょうか。事実確認的な質問、あるいは説明をもうちょっと補充してほしいという質問はございますか。

○三木委員

いいですか。鶴橋地区の三木です。

9ページの防災・防犯の関係で、ちょっとお伺いしたいんですけども、電話の録音装置を無償で貸与しますというお知らせを見たことあるんですけども、現在の程度貸与をされておるか。実態をちょっとお伺いしたいと思います。

○川中委員

では、ご回答いただけますでしょうか。

○松村安心まちづくり担当課長

安心まちづくり担当課長の松村です。

大阪市全体で、65歳以上の高齢者の方に対しまして、1世帯1台、自動通話録音機の無償貸与事業を今年度から実施しているところでございます。

現在生野区では約140台、貸出しを既に行っているところでございます。現在、在庫等もございますので、申し込んでいただきましたら貸出しは十分可能でございますので、よろしく願いいたします。

必要な書類は、本人の確認書類、マイナンバーカードとか、そういった書類を持ってきていただきましたら、申請書に記載いただきまして、機械をお渡しさせていただきますという形になります。電話の電話線と機械をつなぐだけで、簡単に接続等ができます。区役所の窓口に来ていただきましたら、接続の仕方等につきまして詳しくご説明等対応をさせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

○三木委員

ありがとうございました。

○川中委員

ほかにご質問はございませんでしょうか。

私から2つ、質問をさせていただいてよろしいですか。

個別避難計画の策定についてご説明いただきました。この個別避難計画を策定した後、どう活用されていこうとしているのかということと、更新をどの頻度でどのように進めていこうとされているのかということをお尋ねいたします。

2つ目ですけれども、空き家等や老朽住宅の対策という形で、いくのアキカツカウンターを設置されたらとご説明いただいたのですが、開設されてどういう変化が起こったのかということについて、ご報告いただけますでしょうか。

○松村安心まちづくり担当課長

安心まちづくり担当課長の松村です。

私から、個別避難計画のことにつきまして、ご回答させていただきます。

説明の中にもありましたとおり、昨年度は北鶴橋地域のほうで、モデルで実施いたしまして、14町会、約500人分の名簿を作成したところでございます。この名簿につきましては、地域にお渡しさせていただきました、日頃のいろんな見守り活動とかに合わせまして活用していただきまして、災害時にはこういった方がおられるので、助けなければいけないということで活用していただく形で、お渡ししているところでございます。

その名簿の更新につきましては、今後いろいろな状況がございますので、地域とも連携を図りながら、更新等、こういった形でやっていくかをちょっと詰めていきたいと考えているところでございます。

○木村地域まちづくり課長

続きまして、いくのアキカツカウンター、空き家の利活用についてのご質問にお

答えさせていただきます。地域まちづくり課長の木村と申します。よろしくお願いいたします。

当区は空き家活用株式会社と連携協定を結びまして、情報交換をさせていただきました。その上で空き家活用株式会社が所有しております約400軒の空き家とおぼしき家屋の情報提供を受けて、その所有者の方に、まず、いくのアカツカウンターのご案内を送らせていただきまして、5月末現在では5件のご相談を賜っておるところでございます。なかなか利活用までには至ってはいないのですが、いろいろご相談いただく中では、多数の相続者がいる案件であるとか、やはり困難な案件が多くございまして、そちらについて空き家活用株式会社が利活用に向けて取り組んでおるところでございます。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

○川中委員

ご説明ありがとうございました。

区長からも、一言。

○筋原区長

ちょっと個別避難計画の補足でございます。これは、高齢者・障がい者等の支援の必要な方、お一人お一人に対し支援内容や支援者・避難方法などを記載したカルテのようなものを作っていくということで、昨年北鶴橋地域でモデルケースとして実施をいたしまして、今年度については、全ての生野区内の19の連合地域で作成を進め、令和7年度末までに作っていくというものです。

ただ、これ、カルテを作っただけでは実用的ではなくて、やっぱりそれをどう日頃から、いわば顔の見える関係をどう構築していくかというのが、活用のポイントになってくると思っています。

北鶴橋地域もそうだったのですが、これは地域によっていろいろとやり方があるのですが、元となる避難行動要支援者名簿のほかに、地域独自で支援の必要な方を、独自の地域名簿を作っておられる地域が、幾つかあるんです。これは毎年避難行動要支援者名簿を、公的な名簿は更新して、その情報を出していいですかという理解を取りつけるというのは生野区の社会福祉協議会が毎年やっているわけですけど、社会福祉協議会でもワークショップなどを開いて、例えば民生委員さんであるとか、町会長さんや、いろいろ地域の情報をお持ちの方の情報を持ち寄って、マップに落とすとか、そういうような取組をして、実際に顔の見える関係につながる地域名簿を作っているということです。そのベースとなる個別避難計画のカルテを作りながら、そこに情報を足す、次のステップで足していくという感じですが。徐々に毎年、それを繰り返して行って、顔の見える支援関係を構築していくという、そういうイメージで進めていこうとしています。

以上です。

○川中委員

ご丁寧な説明をいただき、ありがとうございます。

では防災・防犯につきまして、質問がないようでしたら、委員お一人ずつからご意見をいただこうと考えておりますので、よろしいでしょうか。

では、北口委員から順々にお願いします。

○北口委員

ありがとうございます。

それでは防災の件なんですが、実は昨日、区長にもお越しいただきまして、巽東連合でまち協の総会がありました。そのときに議長であります多田議長より、「11月12日に防災訓練を行うというのは確定ですか」と質問しましたら、「確定である」と。しかもそれが19連合全てで実施とおっしゃいましたので、「小学校ですか」ってお聞きしたら、「そのやり方は各連合によって違います」ということをおっしゃいました。「それはいいことですね」と言ったのですが。区長もおられましたからお話は早いんですけど、令和4年10月31日の第2回生野区区政会議で、私が、「10月19日に行われる防犯の一斉パトロールはかなり警察署長さんも犯罪が少なくなっているということで喜んでおられる。それなら防災訓練もですね、生野区一斉でしていただいたら、区民の方にも、また町会の方全てに対しても、いわゆる防災に関する啓発活動になるんじゃないでしょうか」と提案をいたしました。その当時はまさかそのように決まっているとは知りませんでしたから、その点におきましては皆さんに啓発していただいて、11月12日、生野区一斉で防災活動されるっていうのは、大変喜ばしいことかなと思います。それは感謝を申し上げます。

それと、コロナもかなり収まってきましたので、行事もしやすくなって、役所さんと地元一体となって、成功裏に終わることを願っております。ありがとうございます。

とりあえず防災に関しては以上です。

○川中委員

そのご提案が実って、次にこんなことをしてはどうかというアイデアがもしあればいかがでしょうか。

○北口委員

これはとりあえず一度していただいて、この一斉パトロールも約7年、8年。9年ぐらいになるか分かりませんね。私も町会長してまして、約9年前、平成26年には、以前からです。24年か5年からですね。前会長さんのときにのぼりを持って走りましたから、10年はされていると思います。ですから、そういう点で、生野区で防犯さんも活動されておりますし、この防災訓練も生野区の1つの皆さんでやっていける行事になれば、また啓発活動にもなるかなと思います。ですから、ぜひ続けていただくのと、やはり広報ですね。皆さんに認知していただけるような活動、大変お忙しくてお世話かけるんですけど、地域のほうもそのような対応はするようにいたしますので、よろしく願いいたします。

以上です。

○川中委員

ありがとうございます。

では、柴田委員。

○柴田委員

巽の柴田です。

防災・防犯の個別避難計画のことについて、65歳以上の老人、高齢の方の名簿を作る、避難計画等々を作るっていうのですけれども、うちの巽地域は、毎年のように敬老会というのをさせていただいています。ここ数年はコロナの影響で、ちょっと配布物という形にはなっているのですけれども、その配布物に対しても、各町会長さんに老人部を通じて、65歳以上という形で、名簿を独自で作らせていただいています。配布するので、どうしても名簿が必要ならある程度数も把握しないとイケない。町会長さんに配っていただく、町会で配っていただくんですけども、そこで必ず顔合わせをさせていただくという形をとらせてはいただいております。

恐らく他の連合もこういった形で、こういう老人の名簿を作成されているのかと思われるのですけれども、毎年更新されるとなると、それはちょっと手間なので、二、三年に一度は必ず更新するという形で名簿を再度作り直すっていう年度は決まっています。そういう形で一応65歳の高齢者の把握という、町会で把握という、地域で把握という部分にはさせていただいているので、このやり方でやっていけば、各連合等々では、区役所から名簿を出していただいただけませんかという形で出せば、恐らく出せる形になるんじゃないかなと思います。このやり方をやっていただければいいんじゃないかなと思います。

○川中委員

ありがとうございます。

ぜひ今あるものも活用しながらというご意見で、行政からの説明にもあったようなところでした。

では、倉本委員。

○倉本委員

ありがとうございます。小路地域の倉本でございます。

この4点の角度から考えると、果たして私が住んでいる地域の皆さん、自助ができるのかという、まず疑問が出てくると、ただ共助をするに当たっても、どういった手順と仕組みでできるのかっていうのが、ちょっと正直私自身も分からないっていうのが正直な感想です。

あとは、その次の人材確保についても、防犯の方々がたくさん頑張ってくさっているんですけど、やっぱり若い方がいらっしやらないのが実情なので、お忙しい30代・40代の方がもう少し入っていただけたら、もう少し変わるのかなということを感じましたので、防災リーダーの方々だったり、防犯の方々に、ちょっと若い方を各町会から1人ぐらい出せというような仕組みになれば、もう少し自助・共助の仕組みも精度が上がるのかなと感じています。

防災訓練も、過去小路地域もやりましたが、やはり高齢者の皆さんがすごい集まって若者は全然来ない。一時集合場所にも基本65歳以上の方がたくさん集まって、避難場所の小学校に入りきらないぐらい集まってしまったっていうので、防災訓練をするだけでもすごく苦労がかかるのと、キャパシティを超えていまし

たので、正直防災機能が機能しているのかっていうのも、少し疑問に感じたときがありました。

空き家については、小路地域はすごく建売住宅が増えてまいりましたので、幸い空き家が減ってきているのと、空き地が減少しているのはすごくありがたいなということと、若い世帯と子どもたちが少しずつ増えてまいりますが、ちょっと実感として私としては、空き家は減ってきているなっていうのを感じています。

あと、街頭の防犯・防止については、なかなか私はあまり身近には感じないんですけども、実際、自宅の固定電話には何件か電話がかかってくるので、私や家族が出れば若い人間が出ますので、すぐ切れてしまいますけれども、高齢の方は比較的意識をしてくださっているので、一緒に同居している義理の母とか父とかもすぐ切るようにされていますので、何かやっぱり啓発活動ができていんだらうって、すごく意識をしております。特にティッシュの配布とか、ポストインだったりとか、警察関係者の方たくさんしていただいているので、これを継続していただくということと、もしよろしければ小学校とか中学校の子どもさん通じて、お孫さん通じて啓発活動もできたら、なお相乗効果が見込めるのかなと感じましたので、正直ちょっと自助・共助というのがまだなかなか各町会とか連合でできるのかなっていうのを疑問視しているというのが感想と意見でございました。

以上です。

○川中委員

ありがとうございます。

若い方が来るには、どういうしつらえ、例えば実施の時期であったり場所であったり、方法であったり、広報であったりとかが求められるのでしょうか。もし倉本委員のご経験から、こんな方法があってはどうかという提案があればいただけると助かるのですけれども、いかがでしょうか。

○倉本委員

そんなになんてすけども。

小路地域はだんじりが4つございまして、結構若い人間がそっちに取られているというのも、ちょっと私は理由としてはあるのかなというのを感じています。

特に夏祭りの地域は、やっぱりだんじりを引くときに、防犯の方がすごい頑張ってくださいているんですけど、引き手が若い人がいるのに、防犯には若い人誰もいないっていう。ちょっと何かやっぱ大変そうだなというのを感じて、そこで何か相互的に補完し合えたらいいのかなと思うので、だんじりの若い方も、もうちょっと地域に入ってきていただけたら、お互いに支え合えていけるのかなと。いざというときに助けてくださっていますので、すごく十分なんですけど、災害のときとかもう少し連携が取れるようになれば、若い方ともつながれるのかなとちょっと感じてたりはします。

○川中委員

そうですね。そうして別の文脈でも活動されている方といざというときに結びつくような出会いになるといいですね。

○橋野部会長

だんじりなんかは地域が。

○川中委員

限られていますね。

○橋野部会長

いろんなどこから来られる方もいらっしゃいますでしょう。そこに住んでいるとは限らない。だから、地域で何かしてほしいと言っても、でもそのときは来られないとか、そういうことかなと思うんですけど。

○川中委員

どうなんですか。

○倉本委員

どうなんでしょうね。

○橋野部会長

私もよく分からないけども。

○倉本委員

若い人はいますんで、ちょっと入ってくれたらうれしいなぐらいですけど。

○川中委員

一部でもね。

○倉本委員

一部でも、はい。1人2人でも来ていただけたら。

○川中委員

ありがとうございます。

では、お願いいたします。

○橋野部会長

中川の橋野です。

私のところの連合も、敬老の品物ということで、70歳以上の人に対してしているので、70歳になったらその名簿をプラスしていくんですけども。

それと今、次の福祉にも関係するか分かりませんが、熱中症にならないようにということで、保健師さんとか、社協とか女性部長さん、その地域を回っているんです。それで安否確認にもなりますし、その人の健康状態も分かるということで。でも、聞いてたらなんか鶴橋包括はそれをされているみたいですけども、他の地域はあんまり、それぞれの安否確認の仕方があるんでしょうけども、完全ではないですけども、やっぱりそれをちょっと影響するというか、いいやり方じゃないかなとは思うんですけどね。

私のところの連合でも、それぞれ会長さんがリストアップして、ここ回ってくれとか、私のところの地域は私が高齢者世帯と、70歳以上ぐらいの人が、80歳以上の人の家も回っているんですけどね。そうすると皆来はって、つえも何もついてないのに85歳とかいうて出てきてくれる人もいます。出てきてくれる人はやっぱり健康なんでしょうけども、もしも中にいてはったり、前も誰か意見言われていましたが、今は出たらあかんとか、ピンポン鳴っても出たらあかんとか、そういう

のもあるし、そのとき、やっぱり女性部長が地域でいてたら、「あ、姉ちゃんかいな」というような感じで出てきてもらえるというのもあるし。それで多少の安否確認はできるんじゃないかなと思っているんです。

○川中委員

今のお話の中で、鶴橋包括はこういうことをされていてということでしたが、いろんな地域の取組をお互いに共有する場合は十分だとお感じになられていますか。それと、もう少しそういう共有の機会があれば、他の地域のやり方を参考にして、自地域を考えるきっかけが増えるとお考えなのか、いかがでしょうか。

○橋野部会長

私のところは、鶴橋包括がそれする前に、中川連合だけっていうのが集まって、それぞれ、お水を配っています。三木さんとこもそうですね、鶴橋。

○三木委員

はい。また後で申し上げます。

○橋野部会長

一緒の包括ですからね。ですから、そのときにみんな、都合のいい日を選んで、回る人たちも選んでされているんで。それだけですけども。

○川中委員

三木委員が次、ちょうど引き取ってくださりそうな雰囲気でしたので。ではお願いします。

○三木委員

鶴橋地域の三木です。

今の橋野さんのお話の続きかも分かりませんが、鶴橋地域につきましては、この6月16日までに独居の80歳以上の方のリストを出しまして、その後、安否確認も兼ねまして、お水を、熱中症対策でお水を配ると。それで、その地域の民生委員と町会長、それから女性部長、それから鶴橋包括の担当の方と、4人で毎年回っております。

それとあと、次の項目に入るかも分かりませんが、合わせて9月には、ある一定年齢以上の方は、敬老のお祝い金をお渡しすると。そのときも安否確認を兼ねて、町会長それから民生委員、女性部長が同行して、1軒ずつ回って敬老のお祝い金をお渡しすると。そういうことを鶴橋地域では実施しております。

以上です。

○北口委員

80歳以上って何名おられるんですか。

○三木委員

鶴橋地域だけでよろしいですか。

○北口委員

はい。

○三木委員

70名ぐらいいらっしゃいますね。しかもこれは独居だけですので、ご家族で、若い方と同居の場合は対象外にしていますから。

○北口委員

あくまで独居ですからね。

○三木委員

はい、そうです。だからご夫婦で80歳以上でお住まいの方が対象になります。それで、その息子さん家族だとか同居家族がいるとか、若い方と一緒にお住まいの場合は対象から外しています。

○川中委員

参考になりましたか。

○北口委員

以前に巽東地区でも、独居の方がおられなくなって、じゃあ中で倒れているんじゃないかっていうので心配したら、田舎で不幸があつて帰っておられた。そんなことがあつて、それを機会として、独居といいますか、独居じゃなくても、80歳以上の方がおられる方に緊急連絡先。ですから、例えば、この方住んでおられて、息子さん・娘さんおられて、緊急連絡先の住所・電話・携帯電話番号、フルネームで教えてください。65歳以上ですね、老人部ですから。それを1町会で全部回して、約110通ほどの個人情報を持って、町会長と民生委員さん、それを情報共有しておいたときがあります。

まだその情報はまだ生かしていますけど、幸いそれを使ってどうのこうのっていうのは今のところないんですけど。協力的に、身内のいわゆる緊急連絡先を書いていただくと。遠い方もおられます。決して大阪市内とは限りませんが、携帯電話番号を書いていただいたら、何かのときには連絡がつくっていう。

それと、そのおうちで何かあつたときは、離れたご家族の方も若干の安心、何かあつたら町会から連絡あるかなっていうので、そういう点でも、ほぼほぼ99、100近い返答はいただきましてね。まあ、拒否されたところも数件あつたんですけど。ですから、そういう点で、やっぱり周りの家族環境を把握できれば、お互い若干安心かなと思います。

ただ、それをしたのは約9年前ですから、今、この個人情報保護を言われているなかでは、それだけの協力を得られるかどうかはちょっと疑問です。

以上です。

○川中委員

情報提供ありがとうございました。

各地区で、そうして取り組まれてきているものをどういうふうに生かしていくのかということころは、きめ細かく考えていけるといいですよ。

また、若い人材をどう確保していくのかという話ですけども、そうした防災訓練のときに、各地域の学校でボランティアで取り組みたい若者がいれば募っていくということなどもされると面白いのかなとも思いました。

この部会、3つ柱がありまして、1つ目の防災・防犯については一巡したところですので、次のテーマにまいろうかと思いますが、よろしいでしょうか。

もし言い残したこと等ございましたら、後でおっしゃっていただいても結構です。どうぞ。

○北口委員

5月26日の金曜日、多分深夜ですけど、僕27日に発見したんですが、新生野中学校の南側の壁に大きな落書きがありました。幅5メートル、縦3メートル、それが2か所です。それを見つけて、あと警察と教育委員会にも連絡したと、校長先生がおっしゃっておられました。

その後、約10日ほど空いた6月5日に校園営繕園芸事務所の方が半日かかりでペンキで壁全部を塗り替えてきれいになったんですけど、巽東地区約300メートルの直線道路、小学校、中学校、わかば高校、生野支援学校と4校があります。子たちの通学路ですし、やっぱり安心・安全面を考えて、ただ生野区役所さんに新生野中学校の正門前東側に防犯カメラの設置はしていただいています。ですから、他のところ、防犯カメラの設置が可能なのか。もしくは三差路が多いですから、カーブミラー、そのような設置を地域としては希望しているんですが、その点はいかがでしょうか。

○川中委員

では、担当部局からご回答、ご説明いただけますでしょうか。

○松村安心まちづくり担当課長

防犯カメラ、昨年度まで設置するというところで、昨年度、各連合に1台ずつ設置したところがございます。今年度は一定維持管理という形には変わっているところがございます。

ただ、大阪市全体でこれまでつけてきたカメラの現状を今、調査しているところがございます。どういった形でやっていくのかは、今検討しているということは聞いているところがございます。

カーブミラーにつきましては、直接区役所で設置しているものではないんですが、建設局で設置しているところですが、新規のカーブミラーは今のところ設置する方向ではないという。要はカーブミラーがあることによって注意が散漫になるんですね。逆に危険なことがあるということで、今のところ、聞いているところによりますと、カーブミラーの設置は今のところ、新規はないとは聞いているところがございます。

○北口委員

ありがとうございます。

○川中委員

では、次のテーマ、地域福祉にまいりますので、また区役所からご説明をお願いいたします。

○武田企画総務課長代理

次のテーマとなります地域福祉について、ご説明させていただきます。

地域福祉の現状です。生野区では、従来より区民の方のがん検診や特定健診といった各種健診の受診率が低めであり、大阪市全体の平均の率よりも低くなっています。また最近発表された厚生労働省の調査では、生野区の男性の平均寿命が全国でワースト3という結果が出ました。ちなみに、男性のワースト2が浪速区、ワースト1が西成区となっています。

また、高齢化が進み、独り住まいの高齢者が増えています。

さらに、児童虐待や高齢者虐待といった深刻なケースの相談が年々増えており、ケースの増加によって、十分な対応が困難となっています。

このような現状に対しまして、まずは生活習慣病や、がんに関する知識を初め、各種検診の重要性について、いろんな手段をもって積極的な情報提供と受診勧奨を行ってきました。

また、地域においては、いくみん健康体操、血管年齢測定、高齢者体力測定なども行ってきています。

続けて、地域における身近な見守り支え合いの取組です。生野区社協にあります見守り相談室に設置された福祉専門職が、要援護者へのアウトリーチや、地域の見守り活動の支援などを行い、併せて「ご近助パワフルサポート事業」として、身近なお困りごとに対して、住民ボランティアとのマッチング業務や、地域の見守りへとつなぐ取組をしてきました。

こちらは地域包括ケアシステムとあって、医療機関と介護機関、そして地域住民が連携し、高齢者を地域全体で見守る仕組みの事です。具体的には、在宅支援ネットワーク会議、認知症高齢者支援ネットワーク会議を通じて、多職種連携による在宅医療・介護連携の強化に努めました。

こちらは重大な児童虐待ゼロに向けた取組の一環として、生野区子ども地域包括ケアシステムのイメージ図であります。ご覧の通り、区役所と区役所を初めとした子育て支援機関と学校、そして企業・団体とも連携し、子どもや保護者を地域全体で見守っていくという仕組みで、虐待の早期発見や課題解決に取り組ましました。

以上の取組を振り返り、今後、より有効なものにつなげていくための課題といたしまして、住民の健康意識をいかに向上していくか。公的な福祉サービスだけでは解決できない多様な課題に対して、地域の担い手をどう育成していくか。高齢者、障害者、子ども、保護者など、課題を抱える方に対して支援するネットワークをどのように広げ、機能させていくか。そして持続可能な仕組みにしていくか。これらの課題に対して、地域住民の目線から見て、もっと有効な手だて、アイデアはあるだろうか、そういった点を論点として挙げさせていただいています。

以上、地域福祉の取組の説明となります。委員の皆様、どうぞよろしくお願ひします。

○川中委員

ご説明いただきありがとうございます。

先ほどと同様に、まず質問等ございましたらそちらを承りたいと考えていますが、いかがでしょうか。質問等はないでしょうか。

もし、ございませんようでしたら、先ほど区役所から示されました3つの論点を中心といたしまして、ご提案・ご意見等を委員の方々からまた承りたいと考えております。考え中でしょうか。いきなりいろんな話がやってきて、戸惑っておられるかもしれません。

じゃあ倉本委員が何か準備ができていそうですので。

○倉本委員

私あんまり身近にない課題なので、少し難しいなと感じていますが、健康意識の向上については、生野区の皆さんがゆえにあまり病院に行きたがらないんだらうなっていうのをちょっと感じたりしていますので、健康体操は行かれています方は行かれていますので、そういったコミュニティに入られない方々にどうやって情報を伝達していくのかのほうの方が重要じゃないのかなとすごく感じていますので、先ほどの防犯とも併せて、健康状態の確認だったりとかも一緒に安否確認とできたら、なおいいのかなと今、感じております。

あとは、公的サービスでは解決できない課題については、少し難しいですけど、何かファミサポの方々とかにも少しご協力いただきながら、子どもたちの様子を公的機関につなげていただくとか、あとはそういったボランティアの方々にも高齢者の方々の様子を報告いただけるような仕組みを作っていただいたりとかというように、もうちょっとインフラ的なものがあれば声は聞き取りやすいのかなと感じております。

あとは、そういった支援ネットワークを、もう少し見える化をしていただけると、私たち30代とか40代の若い世代の方々も活用しやすくなるのかなと思いますので、啓発活動と併せて、こういった取組をしているというのを、もう少しデジタルで情報提供いただけたらうれしいなと思っております。

特に我々世代は、両親の介護がそろそろやってくる世代ですので、こういった機関があるんだということをもっと知っていけると、すごく安心ができるなと思いましたが、地域の方々との、誰がこういったことを役割とされているのかっていうのも、あまり正直知らないのも実情ですので、連合の中の誰に聞けばこういうことにつながるのかっていうのも少し見える化をしていただけると、若い世代の方々も安心感が出るんじゃないのかなと感じております。

以上です。

○川中委員

ありがとうございました。

今の話に関連して、情報をちょっと補足いただけたらと思うのですが、今、区民の各種検診の受診率が低いという現状の原因というのを、区役所としてはどう考えておられるのかというところをご説明いただけますか。その原因だったらこういう取組をしたらどうかというふうにアイデアが出やすくなるかと思います。区役所の中でどう原因分析されているのかをお伝えいただけますでしょうか。

○小川保健福祉課長

保健福祉課長の小川と申します。

今いただいたご質問につきましては、大変申し訳ないんですけども、何が、これが原因だっということの明確なものっていうのは出ていないんです。ただ、がん検診ですとか、受診率につきましては、今現在は、各それぞれのお勤め先で検診いただくところとか、個人とか病院で受診いただくがん検診もありまして、昔でしたら市民検診という形で、クリニックとかでは検診できずに、大阪市がやっている検診だけだったんですけども、今あらゆるところで検診できるような状

態になっておりまして、私どもの方で持っているデータっていうのは、お勤めの方とかのデータとかが入っていない状態にはなっているんです。ただ、24区役所とかで比べると、どうしてもその率が低いという状態になっておりますので、私どもとしましては、今できること、啓発、できるだけたくさんの方に少しでも意識していただいて、特にがん検診につきましては、病気についても早期発見・早期治療が何よりも大事ですので、そこを何とかしてお伝えできるようにということで、今広報等に力を入れているところであります。

ご質問の中身について、適格なことが言えず申し訳ありません。

○川中委員

ありがとうございます。

では、どういうふうになれば皆が行きたくなるか、行かないかなというふうになるかというところですね。皆さんの側からもご意見いただけると、より区役所としては助かるということだと思います。

では、流れでそのまま。

○柴田委員

巽の柴田です。

僕はスポーツ推進委員も一緒にやっています、この3番の高齢者、障害者、子ども、保護者などの関係機構による支援ネットワークというものに、一応大阪市は、障害者スポーツを今年度から取り組むようにという課題も出されておりますので、高齢者、障害者、子ども、みんなが一つになってやれるスポーツっていうのを、ニュースポーツとして取り組んできております。

生野区として代表的なものが、スリーアイズという形で、協会も立ち上がってやっておりますけれども、こちらであれば障害者も高齢者、子どもも皆関係なくスポーツできるという形になっておりますので、こちらを中心に一応推進して行って、まずは顔を見て、どんな方々がいらっしゃるか。こういう障害者の方、高齢者の方、子どもたちも一緒に、その中には多分親御さんも一緒に入ってこられると思いますので、みんなが顔を合わせてとりあえず顔見知りになってから、支援ネットワーク等々の次の段階として組み上げていったらいいんじゃないかなとは思っております。

それと、百歳体操等々で高齢者の健康ということで、巽としても課題を一応出されておりましたので、歩こう会という形で、高齢者だけじゃなく高齢者予備軍の方、60前、50代から60ぐらいの方もぜひ参加してくださいと。独居老人というより引きこもり等々の高齢者の方が問題になっておりますので、その手前で引き留めて、こっち側、外に出てきていただいて、地域のイベント等々で顔を出していただけるようになれば、引きこもり等々も少しはなくなるんじゃないかということで、地域として歩こう会を企画して、年4回企画して行っております。

以上です。

○川中委員

そうした歩こう会の活動で、やっぱり新しい人が参加されたりしているということでしょうか。

○柴田委員

今のところはやっぱり高齢者が多いのは多いです。ただ、ちょっと内容を今度変えていって、バーベキューとかも中に入れていったら、お子さんも一緒に今回は多分入っていただけだと思うので、徐々に若い方を取り込んでいこうという形の、今ちょっと取組を変えていっているという真っ最中でございます。

○川中委員

なるほど。ぜひそうした創意工夫がほかの地域の方に知れ渡ったらいいなと思います。健康づくりとあえて言わないけれども、実は健康づくりにつながってくるような場が用意されているとなると、広く参加者を募っていくことになりそうな形ですね。ありがとうございます。

では、北口委員。

○北口委員

生野区だけの問題じゃなくして、もう日本の国全体の問題かなと思うんですね。ですからあまりちょっとそれぞれの対応、課題っていうのは難しいなと思いますが、今柴田委員がおっしゃったのはいいご意見かなっていうので、賛同したっていうことで、意見とさせていただきます。

○川中委員

ではどうぞ。

○橋野部会長

私のほう百歳体操しているんですが、どうしても人数に制限があるというのか、大体どこの町会でも連合でも40人ぐらいでやっておられる。食事サービスにしろ、やっぱり来られる方が限られるんですね。そこまで歩いてこれるとか。だから、ラジオ体操みたいな形で、どこでも誰でもできるみたいな、何かスポーツいうか運動があれば、一応紙に家でもできる体操とかいうのは、社協とか配っていたいていんですけども、やっぱり指導する人がいなかったら進むことができないんでね。なんかもうちょっとみんなが参加できるような健康づくりみたいなのがあればいいのかなと思うんですけども。

以上です。

○川中委員

先ほど柴田委員がご説明されたようなニュースポーツみたいなものがしやすい環境がもっと身近なところで整ってくると、ちょっと出るぐらいでできたりとかしますね。そういったところの観点もというご意見かと思いました。

では、三木委員。

○三木委員

鶴橋地区の三木です。

各検診の受診率が低いということで書かれておられますけれども、これは町のクリニックの件数は入ってないんですよ。

○小川保健福祉課長

入ってないです。

○三木委員

入ってないですね。

私的なことで申し訳ないんですけども、私の行っているホームドクターのクリニックでは、年2回血液検査、それと胸部レントゲン、それと大腸がんの検査で検便、これも年2回。クリニックの先生が「6カ月前にやりましたので、次回来月はやりましょうね」ということでやっておりますんでね。案内は頂戴しているんですけども、特にご連絡差し上げて受診に行くという必要性は、あまり私自身、感じないですよ。だからホームドクターでほとんどのことはできているのでということもあると思いますんで、だから、生野区の中でも、そういった町のクリニックで積極的に年2回程度、6カ月に1回ですね。いろんな検査をしていると、そういうところも、受診率の低いということもあるのかなと、私自身考えています。

それと、ちょっとまた別件になるんですけども、今日地域まちづくり課に午前中用がありましてお伺いした際に、1階の駐輪場のところで、社協の職員の方と、それから地域包括センターの方が、アンケートを自転車置き場で、駐輪場でされておられまして、それでアンケートに回答した後、資料をお持ち帰りくださいということで、家帰ってから見たんですけども、高齢者向けの生活支援サービス情報の冊子というのもありまして、いろんなジャンル、項目別に、こういったときは連絡先はどこですよとか、住所、電話番号とサービス内容も入って、非常に端的な資料で、見やすい資料だなと思いました。これ社協に行けばいただけると思いますけども、こういったいい資料ができて、できたなと思っておりますので、できればそれぞれの町会の役員さん宛てに、19連合の役員さんに配付を、ぜひしていただければなと思っています。

以上です。

○川中委員

そうですね。せっかくいいものがあるのでしたら、もっと知れ渡ってほしいというところですよ。

ほか、この地域福祉というところで、追加のご意見等ございましたら、おっしゃっていただけたらと思っておりますが、いかがでしょうか。よろしいですか。

では、最後3つ目のテーマに進みまして、もし後で思い返してご意見等ございましたら、最後にまたお伺いいたしますので、そちらでご意見をおっしゃっていただければと思います。

最後は人権と多文化共生に関するテーマになります。

では、ご説明のほどよろしく願いいたします。

○武田企画総務課長代理

次のテーマとなります人権・多文化共生について説明させていただきます。

様々な人権課題がある中で、生野区の特長とも言える多文化共生に焦点を当てて、ご説明をします。

現状としまして、生野区は外国人住民の方の比率が全国一で、5人に1人が外国にルーツを持っています。また、その国籍や地域は約60にのぼり、まさにグローバ

ルな町と言えます。

一方で、やはり生活していく上で、不便を感じられるのも確かでございます。言葉の壁、文化の壁、生活習慣の壁、様々な壁があるかと思えます。そのため、外国人住民の方が日頃から必要な情報を得るためのハードルがあったり、地域住民の一員として、つながりを持つ機会が少ないことも事実です。

そこで、生野区では、少しでも言葉のハードルを緩和するために、やさしい日本語という手法に注目し、その活用に取り組んできました。やさしい日本語は、同じ日本語でもあえて難しい言葉を使わず、とてもシンプルな文体にして、外国人の方でも理解しやすい、翻訳しやすいコミュニケーションツールであります。

また、外国人の方だけでなく、子どもやお年寄りなど、全ての方に分かりやすく伝えられるのも特徴です。やさしい日本語に特段決まった文法のルールはありませんが、そこには、お互いに思いやり、寄り添う気持ちを持つことが大切です。

また外国人の方も、地域コミュニティの一員として、相互に理解し、交流できる機会が持てるよう、いろんな国から来られた外国人住民の方の普段の生活ぶりを紹介したり、昨年、元御幸森小学校跡地にオープンしました生野パークでは、多文化共生の拠点として、食と学びのフェスティバルイベントを開催し、約4,000人が来場し、大変なにぎわいが見られました。

以上の取組を振り返り、今後、より有効なものにつなげていくための課題として、日常から災害時に至るまで、外国人住民に必要な情報をいかに分かりやすく届けることができるか。外国人住民が地域コミュニティに参加しやすい環境をどのように作り、相互理解を深められるか。外国人住民が日頃から安全に安心して暮らせる環境をいかにして作っていけるか。これらの課題に対して、地域住民の目線から見て、もっと有効な手だて、アイデアはあるだろうか。そういった点を論点として挙げさせていただきます。

以上、人権・多文化共生の取組の説明となります。委員の皆様、よろしくお願ひします。

○川中委員

ご説明いただき、ありがとうございました。

それでは、同様に、まずご質問等ございましたら承りますが、いかがでしょうか。どうぞ。倉本委員から。

○倉本委員

1つ質問がございます。外国の方が増えていく理由というか、何がきっかけで多文化の方々が生野区に集っているのかというのが、もし分かるのであれば教えていただきたいなと思えます。

○筋原区長

今大体5人にお一人が外国籍住民の方という状況でございます。そのうちの大体7割強ぐらひは韓国・朝鮮にルーツのある方で、これも歴史的に多くの方が住まわれて、そのコミュニティが出来ていて、それを頼りにしてまた、韓国から来られているということですね。

それから次に多いのが、今もう中国を抜いてベトナムの方が多いです。ベトナム、

中国、ネパール、フィリピン、そのほかで約60カ国の方ということで、ベトナムの方なんかに関しては、町工場で就労という形で働いておられる方も多くおられて、これも町工場によりましてはもう従業員の4割ぐらいがベトナムの方で、工場長もベトナムの方で、ベトナム人のご夫婦で働き、おうちも買われて、子どもさんも小学校に行かれています。本当にもう根付いて、永住という形で住まれているというような方々も多いです。

ですので、やっぱりコミュニティができていきますので、本国の、母国に住むお国のほうから知縁を頼って、そこにコミュニティがあるので、やっぱり住みやすい、働きやすいという条件が整っているので来られるということで。ですので、実は生野区は20代の人口が増えているんですけど、多分お若い外国の方が増えておられるということが大きいと思います。

ですので、いろんなお国の方が暮らしやすい、文化、違いを認め合って、尊重し合うという、異和共生ですね。「異なったままで和やかに共に生きる」という基本理念で、そういうことを進めていければなと思っています。

○倉本委員

ありがとうございます。

○川中委員

ほかにご質問等ございますでしょうか。

ではどうぞ。

○柴田委員

20代の人口増加って今、区長がおっしゃったんですけども、ごめんなさい。こっちが異のほうなんで、これは日本語学校等々があるってということも1つの要因ではあるんでしょうか。

○筋原区長

そこまで正確な分析はなく、でも日本語学校の方がお住まいかどうかというのはいちよつと分からないんですけども、昼間人口でいうと、やはり日本語学校には多く来られておられますし、またそこと地域と連携してという動きもいろいろできてきているようにお聞きしておりますので、いろんな展開ができたかなと思います。

○川中委員

ご質問等続けてございましたらどうぞ。もしなければ、またご意見をいただきたいと思います。論点が3つぐらい書いてあるのですが、もっとこれはこうしたらどうかという意見が欲しいというお話です。ほかのことでも構いません。今回外国人住民の話が多いですけども、人権という意味では非常に幅広くいろんなことがテーマになってまいりますので。

では三木委員からでよろしいですか。マイクがここにありますので。

○三木委員

特には。

○川中委員

何か一言は。一言。

○三木委員

鶴橋地区の三木です。

特に質問だとか意見というのはございませんけども、例えば町会の立場からしますと、外国籍の方が転入、お住まいになられて、それで町会に入りませんかというお尋ねをしても、外国の方は町会という意味そのものが全然お分かりにならないと。理解できない。説明しても分からない。

それで、回覧文書を回しても読めないということがありまして、ほとんどの方は町会未加入と。町会は加入するのは任意ですので、特に入らなきゃいけないということもありませんけども、町会の組織といいますか、どういうことをしているかという活動内容もなかなかご理解いただけない。

かといって、それじゃあごみ出しなんかはきちんとできるかと言えば、できない。それは口頭でこういうふうに、曜日別に何曜日はこのごみですよということでお知らせするというので、町会としては、あまりいろんな国の方がお住まいになられても、いい傾向ではないと個人的には思っています。

以上です。

○川中委員

それ、口頭で説明されたら守られはする。

○三木委員

まあ守っていただくときもあるし、いろいろです。

○川中委員

ではこっちからいきましょうか。

○橋野部会長

中川の橋野です。

私のところの町会にもアジアハウスとかありまして、外国の方が寮生活を送られているのかな。前の区政会議のときに、自転車4人とか道路いっぱい走って危ないとか、こっちが注意しても向こうは分からない、日本語が分からないという話があったので、たまたまアジアハウスの上の人と話して、自転車の乗り方が悪いのを見たら注意してあげてねって言うてはりました。年1回警察からそういう交通安全の指導は受けていますとかおっしゃっていましたが、やっぱりなかなか。

ほかに、急に大きい声を出されたり、それは日本人も一緒なんでしょうけども、やっぱり生活の違いとか、急に声出されたりするのがあって、難しいところがあるんです。

先生はみんな日本人なので分かってくださるんですけど、私らも直接その人たちと話しをすることはないので。前にたまたま私のところで、詰所を潰すことになって、「要らないものがあるから見てちょうだい」って言ったら、衣類ケースとか棚とか、「これもらっていいですか」というような感じで。やっぱり寮生活をしていかはる上に、そういうのがなかなか買えないといったこともあるのか知らない。

でも自転車だけはほとんど皆持ってはりますもんね。それがちょっと気にはなりますけれども。

以上です。

○川中委員

はい。じゃあ。

○倉本委員

ちょっと私が思うのは、できるかどうかはもしご検討いただけたらうれしいなと思うんですけども、この包括支援ネットワークのような、こういったネットワークが外国籍の方向けにあればうれしいなと思ってみたりしたのと、先ほどおっしゃっていただいたように自転車の所有率が多いので、自転車屋さんだったりとかコンビニエンスストアとかに、そういった啓発チラシなどを掲示だったりだとか設置をいただけると、少しずつ日本の文化を伝えられるネットワークができるんじゃないかなとふと思いました。

小路地域もごみ出しのルールはやっぱり守っていただけない方が非常に多くいらっしゃるんで、各町会の皆さんすごくご苦労されていますので、何かそういった町会、町内会の在り方だったりとか、そういったごみを出す文化は日本ではすごく大事だよみたいな啓発が、もしそういったネットワーク通じてできればうれしいなということと、もしよろしければ多言語で、町内会とはこんなもんやみたいなのが、もし区役所のホームページとかに掲示いただいたりとか、ダウンロードで置いていただけると、各町会の皆さんもそれをペロッと出せるんじゃないかとか、というのを少し今お話を聞いていて感じましたが、少しずつ若い外国の方が増えているということは、生野のこのものづくりの魅力っていうのが伝わっていているんだなというのは逆に実感をいたしましたので、いろんな方が安心安全に暮らしていただければいいなということと、地域の住民の皆さんと一緒に、そういったネットワークが強固になればいいなとすごく感じました。

以上です。

○川中委員

ありがとうございます。

では。

○柴田委員

巽の柴田です。

先ほど僕言わせていただいた日本語学校が巽地域にはありますので、外国人住民、そこに、巽に住まれているかどうかはちょっと分からないんですけども、その学校の子どもたち、若い方たちに、うちは、巽としては地域イベントにちょっとお手伝いしてもらえませんかという、学校側をお願いしたら、快く行きたい人を募ってくればって、今年の2月の雪まつりのときですか、お手伝いに来ていただいて。基本的に雪まつりなんで、小学生とか子どもたち対象なんですけれども、20代前後の若い人たちに来ていただいて、雪かき等々の一番しんどい力仕事のほうを手伝っていただいたという部分もあります。

次で言えば、巽は4地域まとまって9月10日に防災訓練ということで、ロート公園をお借りしてやるんですけども、そのときも一応学校側からちょっと提案がありまして、その防災訓練のポスターを各自分のところの国の言語で作らしてくれないかと。それを授業の一環として作らしてくれないかということで、それは構わない

と、作っていただいて、それを1ブースとして展示いただくという形にさせていただいております。

こういうふうに、一応コミュニティ等々にはイベント限定ですけれども、参加していただいて、相互理解から一歩ずつ始めていけたらいいかなと思っております。

地域も、学校側等々のちょっと若い手がだんだん少なくなってきております。ちょっと力仕事等々も皆さん高齢にどんどんなっていくんで、そこら辺で学校側に要請をさせていただいて、もし協力していただけるなら、こちら側も歩み寄り等々の、顔を知っていくという部分で、お互いに協力体制になれるんじゃないかなと思います。

以上です。

○川中委員

ありがとうございます。

今のお話は生野にこれだけ多くの若い外国籍の方がおられることを強みとして捉えて出てくることですね。そうした方に、いきなり地域団体に加入するというのはハードルが高いので、イベントでまずは参加してもらって、お互いに近寄って歩み寄っていく機会を増やしていくと良いと。そうしたところで、多くの地域にもヒントになるお話かなと思いました。

また、先ほど防災訓練の多言語化の話がありましたけど、同じようにごみ出しで少し戸惑っておられるところがあるようでしたら、ごみ出し場に張り出す掲示の多言語化を学校と協力しながらして行って、あちこちどんどん展開していくことで、今よりかは問題が解消されていくのかなと。今の話の中に多くのヒントがあるようにも思われましたので、また参考にさせていただけたらと思います。

では、北口委員。

○北口委員

自宅から約100メートル先に日本語学校があります。驚くほどの自転車と生徒が通っております。コロナ前です。そのときは中国の方でした。で、コロナが収まりかけた最近では、やはりネパールの方ですかね。

巽東地区には居住実態はないように思います。ほぼ近くなんですが、住んでおられるっていう形、もしくは姿、またそういうふうな連合からにもそういう話は聞きません。

ただ、以前は中国の方のときは、近くの小さなお部屋に5人から7人は住んでいるんじゃないかなっていうのもありましたし、近くのレオパレスにはそういう感じはありましたが、コロナ禍でやはり変わったのか、また住まいが変わったのか分かりませんが、やはりコロナを一つとして変わっていると思います。ですから、ネパール、フィリピン、その方たちが多いように思います。

別に生活している上で見かけますけど、そんなどうのこうのっていう点での被害って言ったらおかしいんですが、分かりやすく言えばこちらが困るようなことは一切ないです。

一つ思うのは、学校に掲示されています災害時避難所、日本語、韓国語、中国語があったんですが、今の時代でしたら60カ国ですか。やはりもう少し、ほかの言

葉なり何か考えてしておけば、その方々も助かるかなと思います。

ただ、何も知らずに入ってこられたときには、我々がしている災害時避難所、区役所さんが来ていただいて訓練もしましたけど、そこへ言葉が分からずにどんと入り込まれたときっていうことも、少し考えておかねばならないかなという気がします。

事実大阪わかば高校が、いろんな生徒さんを迎え入れられてきています。特に12時半から1時にかけて登校時間が多いときに、普通でびゅっと通り過ぎたときに、本当にいろんな言葉しゃべっておられます。ちょっと知り合いの教職員の方に聞きましたら、もういろんな言葉が飛び交っているっておっしゃいますから、やはりそれだけ生野区、ただ勉強しているだけではないと思います。ですから、それだけ生野区、中小企業っていうよりも町工場さんですか。まだまだそういう点での雇用の場があるから来られているかなと思いますから、それはそれで大切に、避難時にやはりそのような方々が生活しやすいように、普段はもちろんですけど、災害時ですね。それもひとつ考えていただければというか、考えていかなければならないんじゃないかなと思います。

以上です。

○川中委員

ありがとうございました。

防災の多文化対応とか多言語対応みたいなところも、本当に考えていかなければならないということですね。ありがとうございました。

そろそろお時間が迫ってきておりますので、追加でご意見等ございましたら、個別に区役所にお伝えいただけたらと思います。

私からも1つだけ、このテーマについて申し上げておきます。やさしい日本語からつながろうということをおっしゃられているわけですが、日本語を母語としていたり、日本文化を母文化としている、そうした住民がやさしい日本語について学んでいったり習熟していく機会、それは子どももそうですし、若者もそうですし、事業者もそうですし、地域の方もそうですけども、そうした機会が増えていくとよいのかなとも思いました。先ほど地域のいろんな情報を伝えたいけれども言葉の壁があるという話でしたが、行政情報だけではなくて、地域情報をどういうふうによさしい日本語だったり、多言語化していったりするのかというところは、行政の側でも何かできないかというところをご検討いただくとよいかなとも思いました。

私からの意見は以上でございます。

皆さんよろしいでしょうか。

では多くの皆さんから非常に様々なご意見をいただきまして、ありがとうございました。予定の時間もまいっておりますので、ここで意見聴取につきましては、終了とさせていただきます。

それでは部会長に進行を戻させていただきます。

○橋野部会長

川中委員、ありがとうございました。

それでは事務局から連絡事項がありましたら、お願いします。

○杉本区政推進担当課長

委員の皆様、お疲れさまでございました。本日いただいた様々のご意見については、次の全体会で部会報告ということで、他の部会の委員の皆様にも共有していただきます。

報告内容につきましては、事務局でひとまず整理させていただいて、部会長及び本日進行を務めていただいた川中委員と調整させていただきますので、よろしくお願い致します。

それで続きまして、一点ちょっとお知らせがございます。本日、参考資料3として配布してございます「区政会議の委員改選について」というのがございます。本市の区政会議の委員ですね。その任期は条例によって1期2年、最大2期4年と定められておまして、委員の皆様の任期、一旦本年9月末までということになってございます。

つきましては、10月以降の委員の選定について、現在地域からのご推薦を初めとして、手続をいろいろ進めているところでございます。ついては本部会におきましても、このメンバーとしては本日で終了ということになってございます。

次に資料の裏面をご覧いただけたらと思います。一覧名簿になってございますけれども、本部会で言いますと、上から順に三木委員、本日ご欠席ですが副部会長の小出委員ですね。そして部会長の橋野委員の3名の方が、2期4年ということで、今期にて任期満了されるということになってございますので、ついては本日ご参加いただいているお二方ですね。任期満了されるお二方、名簿の順に、ちょっとすいません。順にお一言ずつお願いしたいなと思ってございますので、まず最初に三木委員、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○三木委員

鶴橋地区の三木です。

4年間、この部会ではくらしの安全・安心部会ということで、務めさせていただきました。ほとんどお役には立たなかったと思ひますけど、いろいろお世話になりました。ありがとうございます。

○杉本区政推進担当課長

ありがとうございます。

続きまして、部会長を務めていただきました橋野委員、よろしくお願い致します。

○橋野部会長

一番最初に区政会議が始まったときに、1期区政委員させていただきました。それと今回しているのと、内容っていうのか、発表の方法が大分変わっておりまして、ちょっと戸惑いもありました。4年間、部会長させていただいて、頼りない部会長で申し訳なかったなと思ひますけども、これからもよろしくお願い致します。

○杉本区政推進担当課長

ありがとうございます。

事務局からの報告は、以上となっております。

○橋野部会長

それでは、本日の会議を踏まえまして、筋原区長から一言お願いいたします。

○筋原区長

皆さん、長時間にわたりまして、貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございます。いただいたご意見ですね。お聞きをしまして、まず防災・防犯ということでは、自助・共助ですね。これについては、これも災害の種類によって、全く自助・共助の形変わってくると思うんです。防災訓練のときなんかは、大体直下型地震を想定していたんですけど、この間も大雨があって、平野川の水位急に上がってきたんで、慌てて各小学校、跡地に避難所開設したりとかいうことがありましたけど、そういう場合の自助っていうのは、シンプルにご自宅の2階に上がるっていうことだったりするので、そういう具体的な災害別の手順っていうのをもっと明確にして、きちんと周知、お知らせをしていく必要があると思いました。

また個別避難計画に関しましては、本日様々のご意見をいただいて、敬老の日に向けての各町会での見守りの形や、また各地域での包括や民生委員さん、町会長さん等を通じました見守りの形の情報をいただきましたので、それを最大限に活用させていただきたいと思っております。

それから地域福祉のところでは、平均寿命の、生野区短いという明確なその原因っていうのは、データが区別されていないので難しいところがあるんですが、ただやはり死因で言うとがんが、これはずっと日本で1位ですし、生野区も同じですので、やはりがん検診の受診率ですね。アップさせていくってこと、非常に大事だと思っております。今日もいろいろなお話をお聞きして、やはり医療機関との連携ですね。例えば、私も実際その医師の、がん専門医の方に、例えば大腸がんなんかのがんの種類によっては、早期に発見したらほぼほぼ治療ができるとか、具体的なデータを示して説明をお聞きしたこともあって、そういうのを聞きましたら、非常に受診をするというモチベーションにもなると思いますので、それでこれからまた医療機関との連携協力も探っていけたらなと思っております。

それから3つ目の人権・多文化共生に関しましては、やっぱりこれから日本が人口減少していく中で、どうしてもこれからの将来の日本においては、外国人の方々とどう共に暮らすか、働くかということが、どうしても大事になってくると思っております。それが今、これから過渡期になってきているんだと思うんですけども、日本で一番外国人の方の比率の多い生野区というのは共生を先導するモデルとなる都市になるべきだし、ならないといけないと思っております。

町会に外国人の方、どう参加いただけるかということでも、今日いろいろなお話をお伺いしまして、やっぱり最初は今日のお話でもありましたように、イベントであるとか、あるいは多言語ということでは、SNSを活用して発信するとか、あるいはコミュニティも、外国人の方のコミュニティも、ベトナムの方のコミュニティなんかちょっとできてきているように聞いていますので、そこへの働きかけとかですね。他にも日本語学校との連携などというのは、非常に大事だなと改めて思いました。

生野区に通勤・通学されている外国人の方に対しても、住んではおられないです

けれども、例えばごみ出しのルールであるとか、地域の情報であるとか、そこで丁寧に説明していくことで、だんだん広げていくことのできる取組のヒントってというのはすごくもらえるんじゃないかなと思いました。

本当にたくさんのヒントをいただきまして、感謝を申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願いを申し上げます。ありがとうございました。

○橋野部会長

ありがとうございました。

区政会議は、生野区の将来について、区民同士が率直に情報交換をし、意見を語り合える場です。7月27日には、第1回全体会の開催が予定されますので、活発なご意見をよろしくお願いいたします。

それでは、これにて本日の「くらしの安全・安心部会」を終了いたします。皆様お疲れさまでした。ありがとうございました。